

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 成 19年 7月 12

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670103441
法人名	有限会社エムエー企画
事業所名	グループホーム ほのぼの家族の里
所在地	鹿児島市吉野町6013-1 (電話) 099-295-8680
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成19年7月12日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	19 人
利用定員数計	18 人
常勤	10 人
非常勤	9 人
常勤換算	14.35

(2) 建物概要

建物構造	木 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	食費の中を含む
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内村川上内科 つかさ歯科 特別養護老人ホーム睦園 老健あおぞら
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の高台にある緑豊かな住宅地に建っているグループホームである。広い芝生の庭で日課である体操をしたり、木陰のベンチでくつろいだり、晴れた日は開聞岳が望める景色を楽しんだり、のんびりと暮らせる環境である。庭の畑で野菜や草花を育て、いきいきと暮らす工夫に取り組んでいる。開設者であるホーム長とともに管理者はじめ職員は、利用者の「自由」と「尊厳」を大切にケアに取り組み、職員体制を強化し、利用者とともに過ごす時間を多く持つように努め、ゆったりとほのぼのとした雰囲気の中で暮らせるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では改善課題は特になかったが、コメントとして提案された事項についてホーム長を中心に早急に検討し取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を全職員に説明し、評価のねらいを理解したうえでホーム長と管理者を中心に全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員の元会長・第三者委員・利用者代表・多くの家族が出席し、自己評価・外部評価の結果を報告するとともに、出席者からの質問や意見・要望などを出してもらっている。出てきた意見・要望などは全職員が把握し、サービスの向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談箱の設置や苦情相談窓口の掲示をするとともに、家族会をかねた運営推進会議で出てきた質問にはその都度返答しており、家族との連絡ノートを活用するなど積極的に意見・要望等を吸い上げる機会を作り、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の小学校の運動会やバザーに参加したり、小中学生の体験学習の受け入れや近隣の空手道場の子供たちとの相互訪問、フリーマーケットの開催など地域住民との交流の機会を積極的に作っている。今後は地域住民の一員として地域で必要とされる活動や役割を担い、地域の人々と支えあう関係を作っていく為にも地域活動に参加していくことが望まれる。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を目指した、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼で理念を唱和したり、ミーティングで理念を掘り下げて確認し合い、日々のケアに反映していけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校の運動会やバザーへの参加、小中学生の体験学習の受け入れ、近隣の空手道場との相互訪問、フリーマーケットの開催など地域住民との交流の機会を積極的に図っているが、自治会加入はなく、地域住民の一員として地域活動への参加は不十分である。	○	自治会加入への依頼は断られたが、その後も自治会会長に運営推進会議や行事の案内をすることで関係作りに努めている。今後もグループホームからの積極的な働きかけを継続して行い、地域で必要とされる活動や役割を担っていくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義や目的を全職員に説明し、評価のねらいを理解したうえでホーム長と管理者を中心に職員全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の元会長・第三者委員・利用者代表・家族の出席があり、自己評価・外部評価の結果を報告するとともに出席者からの質問や意見・要望を出してもらっている。出てきた意見・要望は全職員で共有し、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出向いた際に、市の担当者と情報交換を行ったり、研修についての助言をもらうなどサービスの向上に向けて支援してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の事業所便りや家族の訪問時に、利用者の暮らしぶりや様子について報告している。金銭管理や健康状態についても報告をおこなっており、連絡ノートを活用して確実に連絡事項が伝わるようにしている。	○	計画作成担当者の異動があった際は家族に報告していたが、他の職員の異動についての報告はしていない。少人数で顔なじみの職員との信頼関係が大切にされる中、職員の異動は家族にとっても重要なことと受けとめて、訪問時や事業所便りで知らせることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談箱の設置や第三者委員や市町村の苦情・相談窓口、事業所の相談窓口を掲示するとともに、家族との連絡ノートを活用し積極的に意見や要望等を出してもらうよう取り組んでいる。家族会を兼ねた運営推進会議に多くの家族が出席し、ホーム運営について意見や要望を出してもらい、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員によるケアの重要性を認識しており、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、職員が継続して働ける職場環境作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は人材育成に力を入れており、職員の経験や習熟度の段階に応じた研修への参加を積極的に促している。外部研修へは勤務の中で出席する体制とし、全職員が順番に参加している。外部研修後の伝達研修や事業所内の勉強会も職員が全員出席し、サービスの質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入しており、研修会への参加や地域のグループホームとの交流や相互訪問を通して、自分達のケアを振り返り向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を決める前に、家族だけでなく利用者本人にも見学してもらい、サービス提供の場の雰囲気を感じてもらえるよう支援している。希望者には体験入居も実施し、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染みながら安心して利用できるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昼間は四人の勤務体制で、職員は利用者一人ひとりと向き合い一緒に過ごす時間を大切にしている。利用者から教わったり、手伝ってもらった場面を作り、支えあう関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活アンケートを実施し、本人の意向を把握するとともに日々のかかわりの中で、利用者との会話・表情・言動からの把握に努めている。ノートを活用し、職員間での情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画となるように本人や家族の意向を反映し、毎月のケアカンファレンスで職員の意見を反映させた介護計画を作成している。利用者個々の具体的な支援内容を一覧表にまとめた「ケアプラン早見表」がスタッフルームに掲示してあり、職員は日々のケアに活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを実施し、利用者の状態変化やニーズに対応した介護計画を作成している。三ヶ月毎に評価を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や送迎の支援など、本人・家族の状況や要望に応じて柔軟に対応している。また、医療連携体制を活かして健康管理の強化の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と話し合いのもとかかりつけ医を決定し、必要な時に適切な医療が受けられるよう連携を密にし支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として「重度化した場合の対応に関する指針」を定めており、入居時に利用者本人と家族に説明し意向を確認している。重度化や終末期に向けたケアについての研修を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切に、プライバシーに配慮した言葉かけやケアを徹底できるよう、勉強会やミーティングで職員の意識の向上を図るとともに、日々のケアの中でも常に心がけるようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者のその日・その時の体調や気分に合わせて柔軟に対応し、利用者のペースを尊重した暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳・下膳・後片付けなど、利用者一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒に取り組み、同じテーブルで楽しく食事ができるよう音楽をかけたり、話しかけるなど雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間・回数など、利用者一人ひとりの希望に合わせて対応している。異性の職員による入浴介助は利用者の羞恥心に配慮している。入浴を嫌がる利用者へも言葉かけや対応に工夫し、無理強いしないように対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花を楽しんだり、園芸や買い物、食事の準備や茶碗洗いなど楽しみごとの機会や役割の場面を作り、張り合いのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて散歩や買い物に出かけたり、外出が好きではない利用者も庭に出て体操をしたり、お茶を飲むときに声をかけ外の空気に触れる機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある利用者の外出しそうな気配を察知したら、制止せず一緒に一緒について行くなど見守るケアを行い、居室はいうに及ばず日中は玄関に鍵をかけず自由な暮らしを支援している。近隣の住民にも徘徊について理解と協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、事業所内職員のみで昼夜を想定した火災時の避難訓練を実施し、近隣住民への緊急避難時の協力依頼を行っている。災害に備えた備品や備蓄も取り組んでいる。	○	事業所内職員のみでの火災時の避難訓練だけでなく、消防署の協力を得て専門的見地からの指導をもらいながら、避難訓練や避難経路の確認と整備等を定期的実施し、更に災害時の対策を施して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、利用者一人ひとりの栄養摂取量を把握している。高齢者の栄養摂取や食事について勉強会を開いたり、外部研修に参加し職員の知識を高めるよう取り組んでいる。	○	栄養バランスに配慮した献立を作成しているが、定期的に栄養の専門的な観点からのチェックやアドバイスを取り入れていくことにも取り組むことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所と食堂や居間が一続きとなっており、台所の料理を作る様子やご飯が炊けるにおいなどを感じながら、ゆったりと過ごせる家庭的な落ちつける空間となっている。庭に面した居間の窓から緑豊かな景色を望むことができ、室内にも季節の草花や装飾品を飾り、季節を感じながら過ごせるよう取り組んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具や小物などが持ち込まれ、家族との写真や手作りの作品が飾っており、テレビやラジオを視聴するなど居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。		